



1. 新年度も早一月が過ぎました。

桜若葉がみずみずしい季節となりました。新年度も早一月が過ぎ、子どもたちは新たな学年での生活を軌道に乗せ、目標に向かってさまざまな取り組みを進めています。

さて、昨年度から新しい学習指導要領が全面実施されています。本校では、新しい学習指導要領の趣旨に則り、今年度から保健体育において、男女共修の授業をおこなっています。今後、それに伴う課題は次々に表れると思いますが、他校の実践などを参考に、課題解決に向けて取り組んでまいります。

また、日々の授業においては、「わかった!」「できた!」「なるほどー」と子どもたちの眩きが聞こえる授業、自分で考え、自分の考えを自分の言葉で表現する場面のある授業、周りの人たちとともに課題を解決する授業をめざし、取り組んでおります。

そして、教職員も子どもたちと同様に、仕事をしながら学び、全教職員が協力して様々な教育課題を解決し、失敗を恐れず挑戦し続ける教職員集団をめざし、日々努力しております。真の意味で切磋琢磨、相互支援ができる組織(チーム)になるよう引き続き努力してまいります。

2. 校務員さんからのお言葉

年度当初、学校では副教材などの搬入があり、それに伴って廃棄するダンボールがたくさん出ます。廃棄するダンボールは一旦、古紙倉庫に保管し、しかるべき時にまとめて古紙回収業者に回収していただいています。

先日、校務員さんから、「古紙倉庫に保管しているダンボールがきれいに整えられていて、とても助かりました。」、「この学校に来て3年目になりますが、初めての経験です。」と、職員会議の場でおっしゃっていただきました。それは、教職員が廃棄するダンボールをきれいにまとめて古紙倉庫に保管してくれたためです。その言葉には、とても深みがありました。

発言していただいた校務員さんは、毎日、毎朝、教職員が出勤する前に、早朝から職員室の掃き掃除とともに、ごみを回収し、職員室前廊下も丁寧にモップで掃除するなど、環境整備に大きく貢献していただいています。そのおかげもあって、教職員は毎朝、気持ちよく出勤することができ、子どもたちへも優しく、丁寧に接することができます。また、子どもたちも整った環境に身を置くことで、落ち着いて授業を受けることができます。その校務員さんの仕事ぶりは、誰かに見られているから仕事をしているのではなく、自分自身が見ているから、自分が納得するように仕事をしていると感じています。

最近、教職員も自らコロコロやモップを持って廊下の綿ぼこりを掃除してくれています。掃除をする教職員が一人、二人と増えたのは、日々、黙々と掃除をしてくれている校務員さんの背中を見て、自分たちが生活する場所をきれいすることがいかに大切なことだと「気づく」とともに、職場環境改善に対する意識が高まった結果だと思います。「気づく」のと「気づかされる」のは、大きな違いがあります。校務員さんは、教職員に「教える」のではなく、自分の背中で、教職員を「導いて」くださいました。校務員さんの毎日、毎朝のご苦労が、自然と教職員への「気づき」に繋がったと思います。